

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
大阪ハイテクノロジー専門学校		昭和62年4月1日		橋本 勝信		〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人 大阪滋慶学園		昭和62年4月1日		浮舟 邦彦		〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
医療	医療専門課程	臨床工学技士科(夜間部)		平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度				
学科の目的	医師の指示のもとに、チーム医療の一員として生命維持管理装置を中心とする医療機器の操作・保守・管理・点検を行うことができる実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	臨床工学技士・第2種ME技術実力検定 39名入学 32名卒業 退学4名 (退学率10.2%)									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技		
3年	夜間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,265 単位時間 単位	1,320 単位時間 単位	435 単位時間 単位	510 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位		
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)						
120人	100人	0人		0%						
就職等の状況	■卒業生数(C)		32	人						
	■就職希望者数(D)		26	人						
	■就職者数(E)		26	人						
	■地元就職者数(F)		11	人						
	■就職率(E/D)		100	%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		42	%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		81	%						
	■進学者数		3	人						
	■その他									
	2名は国家試験不合格により、卒業後、月2回ほど本校の学習サポートを (令和5年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有									
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 受審年月: 平成31年2月			評価結果を掲載したホームページURL https://qaphe.com/result/techgraduate/osaka-hightech/						
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-hightech.ac.jp/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		2,265 単位時間		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間		うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)									
	総授業時数		単位		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位		うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2人					
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人					
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人					
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計				4人					
	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				4人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国家試験系の課程として、基本的なカリキュラムは、学校養成施設指定規則に準じるが、医療技術は年々進歩しているため、実習内容や演習系授業など比較的調整が可能な授業スタイルに関してはその委員会内容を参考としている。また、夜間部の特色上、学生の年齢も比較的高いことから、人材としての業界・企業理解を促進する上でも、学生自身が早期に業界へ踏み込むことが重要とし、その内容に関しても教育課程編成委員会のご意見をいただき対応している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたっては臨床工学技士の学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 勝信	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
福士 暁也	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
安達 隆之	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
矢野 昌人	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
井上 佳子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
鈴木 次郎	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
川村 智広	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤江 洋志	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
澤田 正二	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
泉谷 信行	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
関谷 俊範	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
尾沢 怜子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
上田 忠佳	物産アニマルヘルス株式会社開発本部 池田動物細胞医薬センター 主席部員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
永井 慎	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 理事 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科 准教授	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
赤澤 夏郎	株式会社プレンプロジェクト 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
鈴木 謙三	マテック八尾(八尾経営・技術交流会)会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
影石 言光	滋賀県運動・スポーツ実施率向上検討委員会委員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
中武 大輔	株式会社 サップス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
田村 智雄	公益社団法人 大阪府柔道整復師会 淀川支部	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
乾 紘	株式会社GENKI	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
尾崎 卓宏	ホリスティックメディカルジャパン 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志和 輝彦	有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
丹波 徹二	公益社団法人 大阪府鍼灸師会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①

嶋田 琢磨	しまだ鍼灸訪問治療院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
杉浦 正人	関西医科大学香里病院 臨床工学技士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
宮本 哲豪	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会理事 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
小嶋 宏典	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院 医療技術部 臨床工学課 課長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
徳永 政敬	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
村川 圭三	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤田 秀樹	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会 副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
氏浦 亜由美	マイヘルスクリニック 心斎橋院 放射線科 技師長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
福西 康修	公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部 幹事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回の実施(6月・1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月27日実施 18:30～20:10

第2回 令和6年1月18日 18:30～20:10

第1回 令和5年6月30日実施 18:15～20:10

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

手術室での「清潔介助業務」など、今後のタスクシフト・シェアのなかで求められる技術指導について、新カリキュラムにおいては、「臨床支援技術学」で清潔介助業務を、「基礎今後技術」で患者移動、患者観察、看護記録に取り組み、授業は看護師のライセンスを持った講師に依頼している。医療人としての倫理意識の向上、コミュニケーション能力の向上に関する教育についての取り組みについては、昼間部では、1年前期より「健康科学」や「キャリア実践」でグループワークを中心に進めており、「ME機器探求」ではプレゼンの指導を行い、自身の意見をまとめ、伝えるトレーニングを行っている。夜間部はタイトなカリキュラムではあるが、「医用機器安全管理学実習」でRCA分析、KYTなどのグループワークを行い、コミュニケーション能力を養っている。タスクシフト・シェアによる業務の拡大においても、医師や看護師とのコミュニケーションは重要であることを学生に伝えている。「キャリア実践」の授業では、臨床工学技士として病院で働くことについて教えるほか、その後のキャリア形成について伝えている。病院以外の出口も知ってもらい、夢を広げてもらう。新カリキュラムの臨床実習が今年の夜間部から始まる。学生の評価方法も変わり、臨床実習指導者講習会を受講した指導員が必要になるが、準備等に課題があれば情報共有したい。学生の評価が施設ごとにバラつきが出ないようにするべきだが、当面は手さぐり。臨床実習指導者講習会の受講も進んでいない施設もあるので、これからの対応になる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 「臨床工学技士法」に基づく所定の知識・技能を習得だけでなく、最新医療機器に関する知識や技能も習得しなければいけない。「業務指針」に定められた各種業務内容を指導できる設備が整備され、かつ後進の指導に積極的である医療機関に実習を依頼している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 臨床実習カリキュラムにおいて、計180時間の臨地での実習を行なう。主に「臨床工学技士業務指針」を参考に実習および見学を行う。実習前に提携施設と事前打ち合わせを行い、実習後は、所定の様式にて、実習内容に対する学生評価を行なっていた。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	臨床工学技士の行う主たる業務(以下の4項目)について、実践的な知識を身につける事を目的とする。提携している医療機関にて「臨床工学技士業務指針」を参考に実習および見学を行う。(1)血液浄化装置実習、(2)集中治療室実習(人工呼吸器実習を含む)および手術室実習(人工心肺実習を含む)、(3)医療機器管理業務実習、(4)その他の実習。	国立循環器病研究センター、関西医科大学附属枚方病院、りんくう総合医療センター、京都府立医科大学附属病院、兵庫県立尼崎総合医療センター など

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

臨床工学技士科専任教員として、専攻分野の業界が主催するセミナーや学会などに参加することで、常に最先端の技術・知識に触れ、時代のニーズにあった、知識・技能を持って指導できる能力の維持をおこなう。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第33回日本臨床工学会	連携企業等:	公益社団法人日本臨床工学技士会
期間:	2023年7月21日～2023年7月23日	対象:	臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		
研修名:	第29回近畿臨床工学会	連携企業等:	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会
期間:	2023年12月9日～2023年12月10日	対象:	臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		
研修名:	第41回 日本体外循環技術医学会 近畿地方会大会	連携企業等:	日本体外循環技術医学会 近畿地方会
期間:	2023年6月3日～2023年6月4日	対象:	臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第11回 医療機器安全管理セミナー	連携企業等:	大阪府臨床工学技士会
期間:	2023年9月2日	対象:	臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		
研修名:	ME周術期ウィークエンドセミナー	連携企業等:	大阪府臨床工学技士会
期間:	2023年11月10日	対象:	臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		
研修名:	第14回 災害対策セミナー	連携企業等:	大阪府臨床工学技士会
期間:	2024年1月21日	対象:	臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第34回日本臨床工学会	連携企業等:	公益社団法人 日本臨床工学技士会
期間:	2024年5月18日～5月19日	対象:	臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		
研修名:	第69回日本透析医学気合学術集会	連携企業等:	一般社団法人 日本透析医学会
期間:	2024年6月7日	対象:	血液浄化に関わる医療従事者
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		
研修名:	第30回近畿臨床工学会	連携企業等:	一般社団法人 和歌山県臨床工学技士会
期間:	2024年11月23日～24日	対象:	臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	2024年度一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会 会教員研修会	連携企業等:	一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会
期間:	2024年6月1日～6月2日	対象:	臨床工学技士養成校 教員
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		
研修名:	第42回日本体外循環技術医学会近畿地方会大会	連携企業等:	日本体外循環技術医学会 近畿地方会
期間:	2024年6月29日～30日	対象:	臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		
研修名:	第12回 医療機器安全管理セミナー	連携企業等:	大阪府臨床工学技士会
期間:	2024年6月23日	対象:	臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもである。
本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報
(3) 教育活動	学科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配
(4) 学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5) 学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11) 国際交流	国際交流の取組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
福永 かほる	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
福菅 英子	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
久保 みのり	近隣関係者(北中島社会福祉協議会)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域代表
高橋 絵吏	大阪信愛学院中学校高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校
胡本 晃敏	生命工学技術科卒業生 上野佐藤株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
木村 政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
小西 正和	ナカライテスク株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
坂本 俊雄	一般社団法人 i-RooBO Network Forum	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
臼井 達矢	学校法人 大阪成蹊大学	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
尾藤 何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
堀口 正剛	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
山本 桂	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会(医療法人 蒼龍会 井上病院)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
難波 昭典	八尾市立病院 放射線科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 自己点検・自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革、教育システムと教育
(2) 各学科等の教育	学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
(3) 教職員	教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義・業界講演、海外研修、卒業研
(5) 様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設・環境
(6) 学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート、修学支援新制度対応
(8) 学校の財務	法人財務状況
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	社会貢献・地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()
 URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>
 公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所			教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			数学	理工学の基礎として必要な数学の基本を演習を通して習得する。	1前	60	4	○			○				○
2	○			物理学	力と運動、変形する物体、流体、振動と波動、熱と熱力学などを中心に理工学分野の専門へつなぐための基礎について習得する。	1前後	60	4	○			○				○
3	○			化学	医学を学ぶために必要な基礎知識として、物理化学、無機化学、有機化学、生物化学などの基礎を習得する。	1前	30	2	○			○				○
4	○			科学技術英語	科学を題材に文法の簡単な復習と独特の言い回しを学び、単語力、読解力の充実と英語科学論文の読み方、書き方を習得する。	1前	15	1	○			○				○
5	○			医療英語	臨床医学からの題材を中心として、病院用語、略語、病歴、診療所見などの英文解釈と医学知識を同時に習得する。	1後	15	1	○			○				○
6	○			臨床工学技士の倫理	医療人としての道徳的判断、義務、意志の自由と責任について、具体的な例で生命倫理の知識を習得する。	1前	15	1	○			○			○	
7	○			健康管理学	現代人の生活習慣と疾病について理解を深め、健康の維持方法を実践を通じて習得する。	2前	15	1	○			○			○	○
8	○			人体の構造及び機能Ⅰ	骨、筋肉、神経系、呼吸器系、消化器系、循環器系、内分泌器系、感覚器系、泌尿器系などの構造と機能などを習得する。	1前	60	2	○	△		○				○
9	○			人体の構造及び機能Ⅱ	臨床工学技士の業務に特に関わりの深い呼吸器系、循環器系などの構造と機能についてより深い所まで習得する。	1後	30	1	○	△		○				○
10	○			基礎医学実習	実習を通し、解剖・生理・病理学について構造的、機能的、形態的な知識を習得する。	1後	60	2				○	○		○	○
11	○			基礎医学演習	演習を通し、解剖・生理・病理学の知識を習得する。	3後	30	1	○			○			○	
12	○			医学概論	医学の歴史、医療技術の進歩の概要、特に医療機器の歴史の変遷、医療従事者の倫理、将来の展望についての知識を習得する。	1前	15	1	○			○				○
13	○			公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認識させ、一般衛生、労働衛生および疾病予防など公衆衛生の分野の知識を習得する。	1前	15	1	○			○				○
14	○			臨床検査概論	一般検査、血液検査、生化学検査、免疫学的検査、微生物学的検査、その他検査データの解釈についての知識を習得する。	3前	15	1	○			○				○
15	○			生化学	生体における代謝の基礎および疾病と機能検査との関連、その他の知識について習得する。	1後	30	2	○			○				○
16	○			薬理学の基礎	臨床で使用される薬剤の作用機序などを中心に、呼吸器系、循環器系、脳神経系薬剤および利尿薬、抗生物質等の知識を習得する。	3前	15	1	○			○				○
17	○			病理学概論	主な疾病の原因および経過、予後、転帰等、特にME機器の対象となる疾患の病理学像および検査の知識を習得する。	1後	30	2	○			○				○
18	○			基礎看護技術	看護学の基本的かつ主要な概念や看護理論、または看護を行うにあたって必要となる基礎看護技術の知識を習得する。	2後	15	1	○			○				○
19	○			電気工学Ⅰ	直流回路の基礎事項（オームの法則、電流電圧計算、ブリッジ等）および交流の基礎事項（実効値、周波数、位相等）に関する知識を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
20	○			電気工学Ⅱ	ベクトル記号法、直角座標・極座標の複素数表示、インピーダンス・リアクタンス、RC/RL/RLC直列回路、共振回路に関する知識を習得する。	1後	30	2	○			○			○	
21	○			電気工学演習	クーロンの法則、電界・電気力線・電位、コンデンサ・静電容量・静電エネルギー、磁界・電流による磁界・右ねじの法則等について習得する。	1前後	30	1	○			○			○	
22	○			電子工学Ⅰ	半導体の性質（真性・P形・N形）、PN接合、整流特性、バイポーラTr・FETの構造と特性、Tr等価回路・増幅回路、デシベル等について習得する。	2前	30	2	○			○			○	
23	○			電子工学Ⅱ	フリップフロップ回路、カウンタ、レジスタ、A/D/D/A変換器、光と電子の相互作用、LED・フォトダイオード・太陽電池等について習得する。	2後	30	2	○			○			○	
24	○			電子工学演習	前半は電子工学Ⅰで、後半は電子工学Ⅱで学んだ内容について演習し知識を深める。	2前後	30	1	○			○			○	
25	○			電気工学実習	電気工学の講義で学んだことについて、実習を通じて理解を深めるとともにテスター・オシロスコープの使い方を習得する。	1後	60	2				○	○		○	
26	○			電子工学実習	電子工学の講義で学んだアナログ・デジタル回路について実習を通して理解を深め、ダイオード・トランジスタ・オペアンプの扱いを習得する。	2前	60	2				○	○		○	

56	○	関係法規	医事法規概説、臨床工学技士法、関連法規、医療過誤等についての知識を習得する。	3前	15	1	○		○	○			
57	○	チーム医療論	臨床工学技士と他の医療従事者との緊密な連携について理解を深め、医療の実践に活かせるようになる。	3前	15	1	○		○	○	○		
58	○	臨床医学総論 I	臨床工学技士の業務に必要な呼吸器学、循環器学、腎臓・泌尿器学、等についての病態および治療法等を外科的な基礎知識を習得する。	2後	30	2	○		○		○		
59	○	臨床医学総論 II	臨床工学技士の業務に必要な代謝・内分泌学、消化器学、血液学、神経病学等についての病態および治療法等を外科的な基礎知識を習得する。	3前	30	2	○		○		○		
60	○	臨床医学総論 III	臨床工学技士の業務に必要な麻酔・集中治療学、滅菌・消毒学その他のトピックス的な治療法についての知識を習得する。	3後	30	2	○		○		○		
61	○	臨床医学演習	臨床工学技士に必要な臨床医学についての知識を習得する。	3後	30	1	○		○		○		
62	○	臨床実習前演習	臨床実習に必要な臨床技術に加え、態度や姿勢、および接遇について学び、実践できるようにする。	2後	15	1	○		○		○	○	
63	○	臨床実習	血液浄化業務、集中治療室および手術室業務、医療機器管理業務、その他等、計180時間の病院実習を実施し基本的な技術と知識を習得する。	2後	##	6			○		○	○	○
64	○	国家試験演習	臨床工学技士国家試験の過去問題を用いた10回の実力テストを実施し、時期毎の進捗状況を確認しながら国家試験に合格するための実力を習得する。	3前後	45	2	○		○		○	○	
65	○	臨床工学総合演習	臨床工学技士免許取得に必要な実力を過去問題などを教材に演習を行い、正解答できるようにする。	3後	90	3	○		○		○		
合計					65	科目	110(2265) 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	所定の科目のすべてに合格し、かつ出席率が90%以上であること。	1学年の学期区分	前後期
履修方法:	試験の素点、小テスト、実習実技、レポート、出席状況等の総合評価	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。